

## アジア研究教育ユニット 令和5年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	フィリピン研修
<b>代表者名</b>	安里和晃
<b>事業概要 (600字程度)</b>	<p>本事業は、授業＋学習支援ボランティア＋フィリピン研修の3つの柱から構成される。フィリピン研修は、前者2つを経験することの上に成り立っている。学習支援ボランティアでは、フィリピン系児童・生徒の通う小中学校に学生ボランティアを派遣し、日本語支援や学習支援をおこない、多文化の抱えるさまざまな問題に直面してもらう。そして、教育面におけるそうした問題が、単に学習の遅れにより生じているのではなく、貧困要因、移動要因、社会環境要因、家族要因、生物学的要因といった多様な要因に起因することを理解する。学習支援を通じて得られたこうした経験を授業のなかでまとめ、フィリピン研修において、フィリピン政府在外フィリピン人委員会に対してフィードバックをおこなう。同委員会は日本向け移民に対する渡航前研修を実施しているが、このフィードバックは、これから来日する人々に重要な示唆を与えることになる。なおフィリピン研修では、英語で数回のプレゼンテーションを実施し、質的インタビュー調査も実施する。さらに、フィリピン大学アジアセンターでディスカッションもおこなうことから、英語の実践面を鍛えることができる。本年度も新型コロナウイルスの影響により、フィリピンへの渡航は中止となったが、フィリピン系住民を中心とする世帯に食糧支援という形で訪問し聞き取りを行った。</p>
<b>成果の概要 (800字程度)</b>	<p>まず、京都市内の小中学校でおこなう学習支援ボランティアについてはコロナ禍も終息に向かい、学習支援を再開することができた。</p> <p>次に、フィリピン研修について。例年は授業と学習支援ボランティアに参加している学生がフィリピンで研修を受けるが、本年度もフィリピンでは新型コロナウイルスの感染が拡大していることから、大学院1名のみが現地へ渡航した。学部生4名については、代わりに、昨年度同様に国内研修というかたちに変更し、名古屋市でフィリピン研修を実施した。名古屋市では、国際子ども学校への訪問や、フィリピン人労働者の職場見学、ホームレス支援団体の訪問や、ホームレス当事者へのインタビューなどを行った。参加した学生からは「自分が生きてきた社会ではあまり直接見ることのなかった現状を知り、それを見たからには人に伝えなければならないという義務を感じた」、「社会問題に直接向き合うような支援団体の活動に携わった経験がなかったため今回の活動で大きな刺激を受けた」、「暖かく迎えられて驚いたと同時に嬉しかった」といった感想が寄せられた。このように多くの外国人住民から直接お話をうかがえる機会は貴重であり、学生にとって印象深い体験と学びになったといえる。</p> <p>このように例年とは異なるものの、本年度も本事業を実施することができたことを高く評価している。</p>